

・すでに様々な援助団体が入っており、ひとつの援助機関から多くの外国人専門家を送るのではなく、すでに当地にあるものを連携して使えばけっこう効率の良いマルチセクトラルな仕事が可能である。

などが共通点である。

現在の日本政府の財政状況を考えると、国単位に技術者を派遣する原則は見直して、地域単位にしたほうがコストパフォーマンスが良いように思える。JICA から派遣されている専門家も、もう少しきき使うことをまじめに考えてはどうだろう。もちろん、そのためにはいろいろな支援も強化していただかなければならないのだが…。

---

## 図書紹介

### ◎Tropical Rain Forests of Southeast Asia — A Forest Ecologist's View —

By Isamu YAMADA, Translated by Peter HAWKES. Monographs of The Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, English-language Series, No. 20. 392 pp. 1997, University of Hawai'i Press, Honolulu.

この本は、著者が1991年に創元社から東南アジア研究草書24として刊行した「東南アジアの熱帯世界」がPeter HAWKES氏の翻訳によって英語版として出版されたものである。

内容は、1. Swamp Vegetation Landscape, 2. Tropical Rain Forest of Brunei, 3. Forest Ecology of Mount Pangrango, 4. Conservation of Tropical Rain Forest Genetic Resources の4章に別れている。これらの内容については、原著がすでに熱帯林業のNo. 22 (1991) の新刊紹介で要領よく紹介されているので、これを参照していただくこととし、ここではあらためて紹介はしない。いずれにしても、1965年に初めて熱帯林を経験した著者が、その後精力的に東南アジアで森林生態の研究調査を行ってき、現在は人類と森林の関係についての仕事を展開している著者の、一つの足跡を示す著書が英語版として広く紹介されたことは喜ばしいことである。 (加藤亮助)